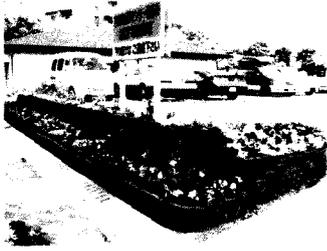


<p>整備の動機や背景</p>	<p>荏田近隣センターの遊歩道（歩行者専用道路）を花でいっぱいにして、周辺の住民や商店街の人たちが憩い、集い、買物を楽しむ空間にしていきたい。ハマロードサポーター制度を、商店街・小学校と土木事務所で提携してから、四季折々花が咲き乱れている。犬の散歩や、赤ちゃん連れのお母さん、小中高生、車椅子の人などがたくさん集まってきている。しかし、花壇の維持は大変。また、平成12年度起業塾、平成13年度から荏田近隣センターの集まりをやっており、多様な人のネットワークもある。</p>
<p>地域ニーズや課題</p>	<p>これまで、提案グループで歩行者専用道路沿いに花壇づくりを進めてきており、その中で花壇のお世話をしてくれる「花壇オーナー」の募集を始めた。しかし、気軽に水遣りができる環境が整っていないことなどもあり、応募に踏み切れない人も多い。花好きの人たちが、気の向いた時に花壇に来て、気兼ねしながら商店から水を分けてもらったりせずに、自分のペースで水遣りができるようになることが望まれている。</p>

2 具体的な整備提案の内容

現況の様子を写真の張り込み等で示すとともに、具体的な整備提案の内容を文章やイメージスケッチ等でお書きください。 注1)



ワークショップで作った花壇



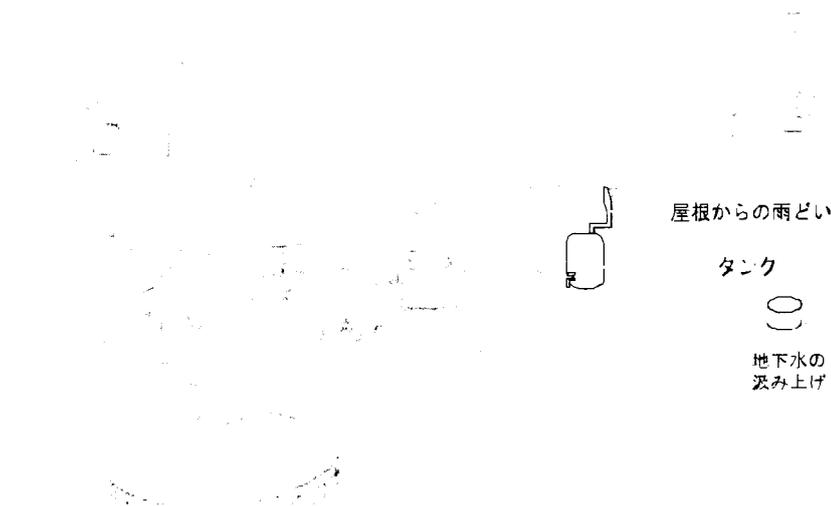
歩専道を活用した祭り



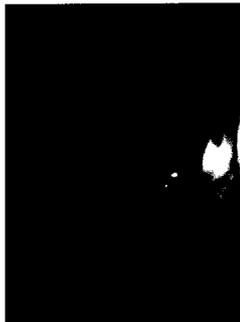
花*花まつり

荏田近隣センター遊歩道（歩行者専用道路）に、屋根からの雨水をためるタンクを3箇所に設置する。（クリエイト（既貯水の利用）、郵便局（既貯水の利用）、えだきんパーク（新規）の3箇所。）屋根からタンクまでは、雨どいを作る。

また、床屋の地下水は汲み上げ、雨水同様水遣りに使う。



イメージ図



現在も地下水が
漏出している

概算整備費： 500万円（参考）

3 整備提案の効果について

<p>整備されたものがどのような人たちに利用され、地域でどのように役立つと考えますか？</p>	<p>花を育てる近隣の住民や商店の人たちに利用され、花でいっぱいの魅力的な商店街になる。花をきっかけに人々の交流が始まり、花を楽しみながら、商店街で買物をする人も増える。その結果、商店街には賑わいが生まれ、かつてのように生鮮食品なども揃った商店街となり、集客効果が上がる可能性も出てくる。</p>
---	--

4 整備提案の実現性について

<p>整備箇所の地権者や建物所有者、地域組織（町内会・自治会等）への周知状況をお書き下さい。</p>	<p>提案グループ自身が提案箇所である商店街の活性化を考える集まりであり、提案者自身も整備箇所の地権者である。また、荏田南近隣センター商店会の企画会（36回）にて報告を行い、認知してもらっている。</p>
<p>整備提案を実現するために既に提案グループが持っている資源（ヒト、モノ、カネ）は何ですか？ 注2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒト：幅広いネットワーク、様々な分野に関わるヒトの参加 （起業塾→集まり→応援団→花＊花倶楽部） NPO 集住グリーンネットワーク ・モノ：遊歩道（歩行者専用道路、ハマロードサポーター制度）、地下水 えだきんパーク、およびそのホームページ ・カネ：花募金（花壇づくりの募金箱を商店街に設置して3年目） 地域通貨（都筑リーフ） ・その他：活動へのエネルギー（柔軟な作業時間の提供）
<p>実現のために、もっと強化したいあるいは、新たに欲しい資源（ヒト、モノ、カネ）は何ですか？ 注3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的なアドバイスのできる専門家 （雨水や地下水の利用に関する技術的な助言） ・取水・給水の設備工事 ・施設整備のための資金（花募金の発展、イベントによる収益） ・花壇などを維持する人たち
<p>施設整備や維持管理について、提案グループや地域住民等がどのように関わろうと考えていますか？</p>	<p>提案グループの持つヒトの資源を最大限活かし、施設整備段階での作業などは、自分達でできることは自分達で行っていく。また、施設整備後の維持管理においても、商店街、えだきんパーク、応援団だけでなく、花壇オーナーや地域住民と一緒にワークショップを行い、考えていく。</p>

5 特にPRしたい点

<p>提案内容や実施体制等について、特にPRしたい点があればお書き下さい。</p>	<p>提案グループは元々提案箇所である商店街の活性化のための集まり。これまでに多くのイベント開催の実績があり、関わる組織やヒトは商店街や地域住民、NPO、学生など幅広い。また、ハマロードサポーター制度を用い歩行者専用道路の日常的な清掃などの管理を行っている。豊富なヒトのネットワークと活動へのエネルギーは、提案グループの持つ最も大きな資源である。</p>
---	---

6 事業スケジュール

1次コンテスト以降、提案の実現に向けて、提案グループが取り組むことについて、事業完了までご記入ください。

	取 り 組 み 内 容 (合意形成、第2次整備提案書づくりなど)
7月	1次コンテストに向けた準備 (プレゼンテーションの方法の検討) 1次コンテスト ◆現地調査およびヒアリング
8月	墨田区 (世界雨水会議等) や横浜市内などの、雨水利用の事例調査。 夏まつりで近隣に周知。えだきんパークのホームページでもPRする。 ◆フラワープロジェクト (雨水利用の整備に向けたアイデア・ワークショップ)
9月	◆研究会 (雨水利用、整備の仕方、設計に向けてのワークショップ) →提案の実現に向けたアイデア出し、アイデアの整理、技術面、資金面などでの実現性の検討 (商店や地権者等との調整)
10月	維持管理まで含めた実現性の検討 →ワークショップやヒアリングをもとに、設計をおこす。 工事における費用算出、工事スケジュール、完成予想図作成等 ◆維持管理についてのワークショップ
11月	第2次整備提案書づくり 第2次整備提案書提出 第2次コンテストのプレゼンテーションの準備
12月	2次コンテストのプレゼンテーションに向けての準備 2次コンテスト
<p>2次コンテスト以降 (設計期間、整備助成金交付申請時期、着手時期、工事期間、完了時期) 1次コンテスト通過後の活動で、専門家の協力などを得て、具体的に必要な資金、設計期間、工事期間などを検討したい。完了時期については、花への水やりの必要性が増してくる次年度の夏までには完了させたい。</p> <p>平成18年12月 ワークショップの準備 1月 ヒアリング 2月 設計期間、整備費積算内訳書作成、助成金交付申請期間 3月 着手期間 ～平成19年3月 完了</p>	

■ 今までの花壇づくりで、汗を流している様子

これまで、殺風景だった駐車場に花壇をつくる取組みや、ツリーサークル（鉄板）を取り、それぞれの木の根元に花壇を作るワークショップが行われ、今では花いっぱいの商店街となっている。

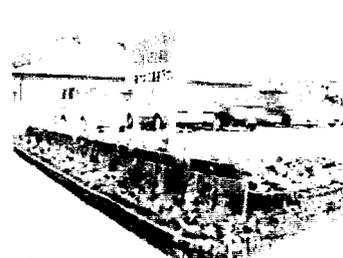
しかし、整備後の維持管理の負担が特定の人にかかりがちであることが課題であり、今後様々な人たちの参加が望まれる。



草ぼうぼうの斜面の状況



商店街、学生、障害者など多様な人たちで土木工事



皆で花植え→完成！



駐車場の前の花の植え替えを、小学生たちで完了！



花壇に参加する人を増やそうと、花壇ワークショップを連続で開催



花＊花まつりのイベントに合わせて、花を植え替え



花＊花ワークショップなどをえだきんニュースに掲載



ホームページにイベント情報などを掲載



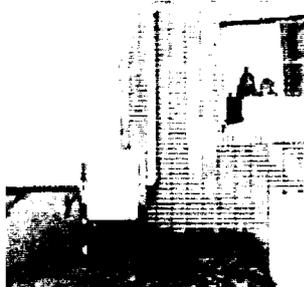
花募金の募集。募金箱は牛乳パックを使って。

■ 整備に向けて

- 花壇の楽々水やりを目指して、国内外の雨水利用の事例についての勉強会を行う。えだぎんに合う方式を選ぶワークショップを行う。



雨水を植木の水遣りや防火用水に

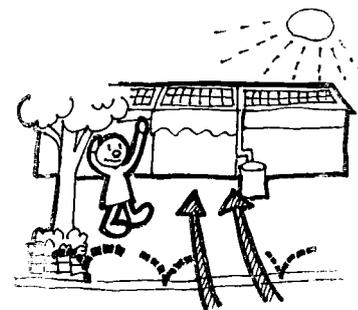
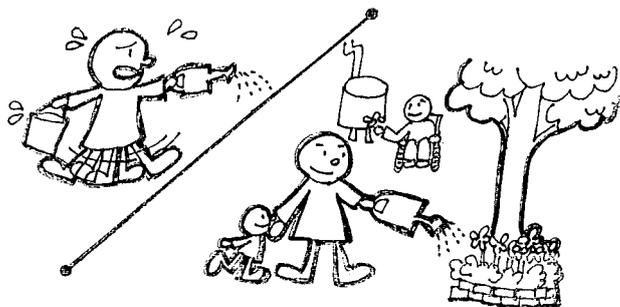


屋根からの雨どい



エコタンクの説明

- 雨水利用やタンクの整備が可能になれば、障害者・子ども・買い物客など、いろいろな人たちが花壇の整備に関わることができるようになる。また、夏には水撒きが「涼」を演出する要素になることが期待される。



- さらに夢は広がる
今後、整備された歩専道の活用として、ピアガーデン、オープンカフェなども考えられる。



温泉を掘り出して、足湯もしたいね！

水路も作りた
いね

屋根の上で、ピアガ
ーデンもいいよね